

二要素認証

パスワード漏洩対策 / フィッシング対策



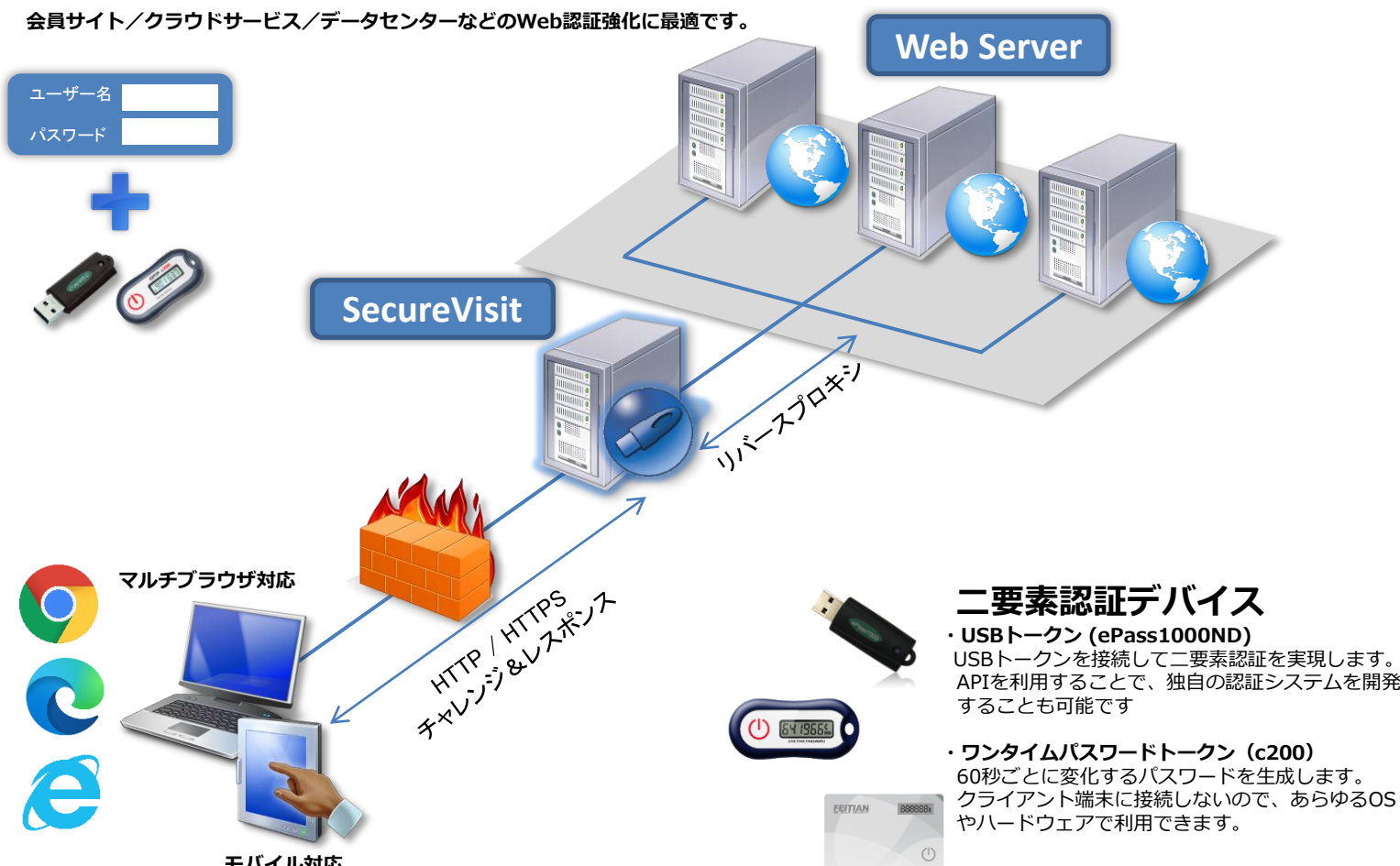
SecureVisit

& 認証デバイス

Web認証強化

従来から運用されているWebシステムを変更することなく、SecureVisit」をWebサーバーの前に置くだけで、USBトークンやワンタイムパスワードトークンによるWeb認証およびアクセス制御を実現します。

会員サイト/クラウドサービス/データセンターなどのWeb認証強化に最適です。



二要素認証デバイス

- ・ **USBトークン (ePass1000ND)**
USBトークンを接続して二要素認証を実現します。APIを利用することで、独自の認証システムを開発することも可能です。
- ・ **ワンタイムパスワードトークン (c200)**
60秒ごとに変化するパスワードを生成します。クライアント端末に接続しないので、あらゆるOSやハードウェアで利用できます。

リバースプロキシ

SecureVisitサーバーはリバースプロキシサーバーとして動作し、すべてのリクエストを中継するので、既存のWebサーバの設定やコンテンツを変更する必要が無く、既存の認証方式から容易に二要素認証へ移行できます。

クライアント側から見ると透過的であり、ユーザーはSecureVisitを意識する必要がありません。

アクセスコントロール

SecureVisitでは転送先URLへのアクセス許可/拒否をユーザーグループ毎に制御することが可能です。また、許可リスト/拒否リストで特定のIPアドレスからのアクセス許可/拒否も制御できます。転送先に指定するWebサーバーは複数のサーバーを指定できます。

マルチドメイン

1つのSecureVisitシステムに複数のドメインを登録することが可能です。

SecureVisitは1つのシステム環境で複数のシステムを共同で利用できるマルチテナントにも対応しています。

ePass1000ND / OTP

クライアント側はePass1000ND / ワンタイムパスワード (OTP) を使用します。クライアントプログラムはSecureVisit初回アクセス時に自動的にダウンロードします。

USBトークンを利用できない環境では、ワンタイムパスワードを利用することで、様々なクライアント環境に対応します。

提供元

飛天ジャパン株式会社

使えるセキュリティをお客様へ

お問い合わせ・評価キットのお申し込みはこちらまで

飛天ジャパン セキュリティ営業部

☎ 03-3668-6668

✉ 1st_sales@ftsafeco.jp

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 9-3 CANAL TOWER 4F/7F
https://www.ftsafeco.jp/

採用事例

「SecureVisit」の導入で、クラウドサービスへの接続ユーザのセキュリティを強化



株式会社 サイバー ウェーブ ジャパン 様

株式会社 サイバー ウェーブ ジャパン
Cyber Wave Japan Co., Ltd.

データセンターで運用するグループウェアの認証を強化したいというエンドユーザー様のご要望に、USBトークンを用いて認証を強化する「SecureVisit」をご採用いただきました。

■ SecureVisitを導入した理由

- 既存のWebシステムに対し、改造など手を加えることなく設置することができた
- USBキーを用いて認証強化するため、エンドユーザが使用するために特別な教育が必要なかった
- 導入コストが安価であった

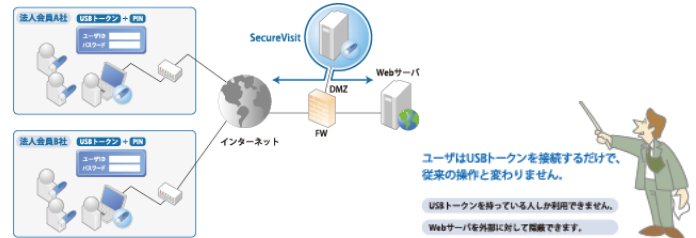
■ USBキーをどのように活用していますか？

サイバーウェーブジャパンの提供するSaaSサービス『mSaaS』をご使用されているエンドユーザー様のセキュリティ認証の強化ツールの「カギ」として、USBキー(ePass1000NDトークン)を使用しています。
※mSaaSではdesknet's(デスクネット), CAMS, SSS(サザン)を取り扱っています。

お客様の中には、『mSaaS』のdesknet's, CAMS, SSSに接続する際にIDとパスワードだけの接続だと不安だという声がありました。その課題を解決するためにUSBトークンを使用し、認証を強化して使用しています。

『mSaaS』のオプションサービスとしてUSBキー(ePass1000NDトークン)を使用しています。
認証方式としては以下の2方式を提供しています。

1. USBキー(ePass1000NDトークン)の物理認証
USBトークンを挿入したPCからアクセスが可能となります。
2. USBキー(ePass1000NDトークン)の物理認証+ID認証
USBトークンを挿入したPCからID(社員番号等)認証を通ったユーザのみがアクセスが可能となります。



USBトークンによるユーザー認証で、有料会員制Webサイトのセキュリティを強化



一般財団法人 建設物価調査会 様

一般財団法人建設物価調査会では、有料会員制のWebサイト「Web建設物価」のユーザーの認証キーとして飛天日本のドライバレスUSBトークン「ePass1000ND」をご採用いただきました。

■ USBトークン「ePass1000ND」を採用した理由

会員制のWebサイトでIDとパスワードの入力を求められるのはよくありますが、「Web建設物価」に掲載されている情報には価値がありますし、「Web建設物価」にユーザー独自の情報を登録することもできます。ですからIDとパスワードの入力だけだと不特定多数の人に閲覧されてしまう恐れがあります。

■ 物理的な認証システムが必要でした

認証システムにはUSBトークン以外の方法も考えられましたが、それぞれUSBトークンに比べると以下のように不利な点がありました。

- ICカード/指紋認証システム
ICカードや指紋認証システムには外付け機器が必要になります。そのぶん費用もかさんでしまいます。
- マトリックス表
マトリックス表は記載されている記号の情報を簡単に漏らしてしまいうことができます。それでは認証システムとして甘いと考えました。
- 電子証明書
電子証明書はユーザーにインストールしてもらう必要があり、パソコンに詳しくないユーザーにとってはハードルが高くなります。

以上のように考えた結果、認証システムにUSBトークンを採用することを決定しました。

■ 比較検討の結果、飛天日本の製品を採用

飛天日本以外に2社と比較検討し、最終的に飛天日本の製品に決定しました。飛天日本の製品は品質、価格、対応の柔軟性とサポートの3点で優れていました。

【品質】

比較検討した1社は技術情報に不足がありました。それで品質面に不安があるということで早々に候補の対象から外しました。

【価格】

残るもう1社と飛天日本の製品では、価格差がありました。飛天日本のほうがUSBトークン1本あたり1,000円以上安かったのです。もう1社はセキュリティが強固であることを盛んにアピールしていましたが、検討してみると飛天日本の製品もそんな色ないことがわかりました。

【対応の柔軟性と迅速なサポート】

導入を検討した2006年当時、ブラウザにネットスケープを使っている方がいました。飛天日本はネットスケープにも対応できるようカスタマイズを手伝ってくれました。その迅速なサポート対応は、とても安心できました。対応の柔軟性とサポートも、採用の決め手のひとつになりました。

■ 飛天日本のUSBトークン導入の効果

とても満足しています。ユーザーから「使い方がわからない」「難しい」「故障した」といったクレームはありません。また「Web建設物価」が不正に閲覧されているようだとの報告もありませんから、ユーザーを物理的な認証キーとして管理する機能にも問題ないと考えています。